

祖父母が作る『カの源』

長岡市立大島小学校 六年 本間 大貴

甘くてふっくら、もちもちごはん。お肉やお魚など何にでも合うごはん。ぼくは、ごはんが大好きです。ごはんを食べると、スポーツや勉強をがんばれたり、笑顔になれたりします。だから、ぼくにとってごはんは『カの源』です。毎日食べてもあきなぐし、秋にとれてから次の秋まで保存が効いて一年中食べられるので、ごはんは本当にすごい食べ物です。

ぼくの祖父母は、その『カの源』を作る農家です。六十才を過ぎても二人でがんばっています。そのお米は、農協に出荷するほかに、ぼく達家族にも分けてくれます。ぼくが遊びに行くとき、二人ともいつも忙しそうにしています。どうして、そんなに忙しくしているの？と、ぼくは祖父に訪ねました。『農家の仕事はいつも大変なんだよ。天気が

悪いと仕事も止まるしねい。

と、祖父は言いました。続けて、

「春は育苗、田打ちから始まって、夏は稲の

水やり。秋は稲かりともみのかんそうをす

るけれど、そのかんそうでお米の良し悪し

が決まるんだよい。

と、教えてくれました。祖父の話聞いて、

農家の仕事は休むひまがなくて大変な事が分

かりました。すると祖母も、

「農家にとついで初めての事はかりだったか

ら、最初はとても苦労したよ。サラリーマ

ことは違って、時間が決まっていなから

ねえい。

と話し始めました。そして、

「でもね、農家はとてもやりがいのある仕事

だよ。愛情をこめて作るほど、おいしいお

米になるんだよ。ババは、みんなが喜んで

くれるのが一番うれしいなあい。

と、やあらかい表情で言っていました。祖母

が、一人前の農家になるために、これまでた

くさんの苦勞があつた事を初めて知りました。昔に比べて、お米の消費量が減つてきていゝる事を祖父母は悲しんでいます。だから、安んずる事で安心な日本のお米を世界中の人々に食べてもらひ、祖父母や農家の方々に喜んでもらひたいです。そして、お米の良さを次の世代にしっかりと語り継いでいきたいです。ぼくは、お米一つづ一つづの重みを感じながらしっかりと味わひ、感謝して食べる事を二人と約束しました。これからも、祖父母には「力の源」を作り続けてほしいです。